

建設工学科における「キャリアプラン演習」の試みと改善

滑川 達

(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)

1. はじめに

近年、大学生が就職活動を開始する時期が、3年前期へと前倒し傾向になっている。他方、学生達が就職する「今」と、彼らが脂の乗る技術者となる20年後の「将来」における社会構造、産業構造が大きく変化している可能性は極めて高い。このような認識のもと、建設工学科においては、平成19年度より、OBによる職業指導を中核に据えた「キャリアプラン演習」(3年前期・必修1単位)を開講し、学生が将来の進路を広く太く考える機会となる時間と場の提供に努力している。本稿では、この演習の2008~2009年度の改善内容とその評価を中心にその取り組みの内容を紹介する。なお、本稿における考察は、学科を代表するものではなく、筆者の実施経験上の実感に基づくものも少なからず含まれており、その内容に関する文責は筆者個人にあることを断っておく。

2. 「キャリアプラン演習」の概要

本科目の目的は「学生が将来建設技術者として自立するための就職意識を身につけること」である。また下記のような到達目標を設定している。

- 1) 建設業務の計画と実施・マネジメントに関わる実務について知識を習得している。
- 2) 現状の建設技術が抱える諸問題について認識を有する。
- 3) 口頭ならびに文書による効果的なプレゼンテーションのために必要な日本語表現力を身につけている。

「キャリアプラン演習」の授業の流れは、概ね前半は主として各自のキャリアプラン(生涯設計)立案のための情報収集ならびにOBによる職業指導を、また後半は前半で考えたキャリアプランを実行に移すための第一歩として、将来の就職活動の予行演習も兼ねた一連の研究室配属活動を実施する。以上のように本科目の特徴の一つに、前半に実施されるOBによる職業指導をあげることができる。これは徳島大学建設工学科の同窓

会組織(美土利会)の全面的な協力を得て実施するものである。美土利会はルーツである徳島高等工業学校土木工学科から現在の徳島大学建設工学科までの約4000名の卒業生で構成されており、日本全国に12支部を有している。なお、本稿では、本科目の特徴であるOB(美土利会)による職業指導「先輩との懇談会」の運営改善に焦点を絞り、その内容を紹介する。

3. 2008年度学生アンケートによる課題の抽出

ここでは、まず2008年度時点での「先輩との懇談会」の運営方法の概要を示しておくこととする。2008年度の「先輩との懇談会」は、6月7日(土)に、講師(OB)9名を迎え開催されている。講師9名の職種内訳は、公務員3名、ゼネコン2名、コンサルタント2名、メーカー1名、研究者1名である。なお、講師の卒業年度は、ゼネコン経営者層の1990年(平成2年卒)1名を除き、概ね1968年(昭和43年卒)から1980年(昭和55年卒)となっており、いずれにしても経営層クラスのベテラン技術者を迎えていた。また、プログラム進行の概要は、①講師9名からの自己紹介(2分×9人)、②(事前に取り纏め講師に送付しておいた)職種別質問に対する回答(9分×9人)、③講師からの回答に対する学生からの質問(50分)が予定されていたが、当日においては③の時間を圧縮せざるを得なかった。

ここで、その際の事後学生アンケート調査結果を表1の2008年度選択数の列に示す。まず、「先輩との懇談会」が「進路を考える上でどの程度参考となったか」という質問に対して、「大変参考となった」10名(11.2%)、「参考になった」65名(73.0%)と概ね良好な評価となっている。一方で、実施方法(講師の人数)では、「丁度よい」が53名(60.2%)と最も多いものの、「多い」が33名(37.5%)に上ったとともに、実施方法(講師職種のバランス)では、「各職種1名程度でよい」が38名(43.2%)に及ぶ結果となっている。

表1 事後学生アンケート結果

No.	質問	選択項目	2008年度 選択数	2009年度 選択数
1	総合的に判断して、「先輩との懇談会」は自らの進路を考えるのにどの程度ためになりましたか？	① 大変参考になった。	10(11.2%)	38(45.6%)
		② 参考になった。	65(73.0%)	42(53.2%)
		③ あまり参考にならなかった。	14(15.7%)	1(1.3%)
		④ その他	0(0.0%)	0(0.0%)
2	どの職種に関する説明に興味を覚えましたか？(複数回答可)	① 公務員	33(21.4%)	32(26.7%)
		② コンサルタント	54(35.1%)	27(22.5%)
		③ ゼネコン	33(21.4%)	51(42.5%)
		④ メーカー	19(12.3%)	—
		⑤ 研究職	15(9.7%)	10(8.3%)
3 1)	実施方法 (開催日)	① 土曜日午前開催で問題ない	46(52.3%)	54(68.4%)
		② ウィークデイが望ましい	42(47.7%)	25(31.6%)
		③ その他	0(0.0%)	0(0.0%)
3 2)	実施方法 (講師の人数)	① 多い	33(37.5%)	0(0.0%)
		② 丁度良い	53(60.2%)	71(88.8%)
		③ 少ない	2(2.3%)	9(11.3%)
3 3)	実施方法 (講師職種のバランス)	① 丁度良い	50(56.8%)	50(62.5%)
		② 08年度:各職種1名ずつでよい 09年度:各職種2名程度がよい	38(43.2%)	29(36.3%)
		③ その他	0(0.0%)	1(1.3%)
3 4)	実施方法 (ディスカッション時間)	① 丁度良い	60(69.8%)	60(76.9%)
		② 短すぎる	14(16.3%)	18(23.1%)
		③ 長すぎる	12(14.0%)	0(0.0%)
3 5)	その他(自由記述欄)		2	5

また、「講師の人はもう少しキャリアの浅い人の方がイメージがわかりやすい」といった意見もあった。加えて、指導頂いた講師陣からも、「各職種1名程度でよいのではないか」「時間と講師と質問数のバランスをとる必要がある」「時間との兼ね合いもあり質問時間がとれなかったように思う」「各職種毎に部屋やテーブルを変えるなどの工夫をすれば学生がもっと質問しやすくなるのではないか」等の意見があった。

4. 2009年度における改善の概要と学生アンケートによるその評価

このため、2009年度においては、次のような運営改善を図り6月6日(土)に実施した。①就職環境が厳しさを増す中で、「内定」という一断面への目標設定が余儀なくされていることを鑑み、本「先輩との懇談会」では、もう少し中長期的に就職後の技術者としてのキャリアパスを考えられる機会と場を提供すること。これについては、講師陣に対し、できる限り一技術者としての道程についてアドバイスをお願いしたい旨を伝えるとともに、受講生に対しては、「講師の方々は一技術者・一先輩として皆さんにお話し頂い

ており、講師の方々が所属する組織を代表する見解を伝えているのではないことを肝に銘じるように」との指導を徹底した。これにより、特に公務員の講師の方にとって忌憚の少ないご指導を頂ける環境が向上したものと思われる。②講師の人数を各職種1名程度に絞るとともに、40歳前後の中堅技術者の方々を、美土利会の協力のもとお迎えした。具体的には、公務員1名(平成2年卒)、ゼネコン1名(平成6年卒)、コンサルタント1名(平成5年卒)、研究職1名の計4名の講師陣をお迎えした。③当日のスケジュールについて、はじめの講師自己紹介(10分×4人)等の全体会のあと、

「公務員」「ゼネコン」「コンサル・研究職」の3部屋に分かれ35分間の質問時間を2回とることにより、双方向のコミュニケーションの改善を図った。これにより従来より少人数で各受講者が2職種の質問時間に参加できることとなる。以上3点の改善を行った2009年度の事後学生アンケート調査結果を表1の2009年度選択数の列に示す。「先輩との懇談会」が「進路を考える上でどの程度参考となったか」という質問に対して、「大変参考となった」36名(45.6%)、「参考になった」42名(53.2%)と評価が向上している。また、実施方法(講師の人数)では、「丁度良い」が71名(88.8%)、「多い」が0名(0.0%)と意図した改善が概ね図られていることがわかった。

5. おわりに

以上のように、外部組織を含む授業改善を図る上で学生アンケートは有効である。今後としては、より一層の美土利会との連携を図り、女性技術者の方や、土木系以外の建築系技術者等の方を講師に迎えること、また「先輩との懇談会」の複数回開催も検討に値する試行事項であると思われる。